

【週刊・毎土曜日発行】



発行所
町田タイムズ社
郵便番号 194-0004
東京都町田市鶴間602-3
編集発行人 山根 栄子
電話 042(799)1100(代)
〈振替口座〉
00150-3-103219 武相新聞

震災孤児の未来 照らす

今後とも支援継続

善意が
三社員

東日本大震災から5年。町田市を拠点に廃棄物処理事業などを営む「三凌商事」(赤石賢治社長。本社・木曽東)の社員約180人が、同社協力ののもと「被災した子どもたちの未来のために」と支援活動を続けている。被災直後の2011年4月、義援金約36万円を日本赤十字社へ寄託。翌12年10月に東京都産業廃棄物協会の一員として、赤石社長が宮城県石巻市などの被災地を視察。同市は海沿いで深刻な津波

被害を受け3千人以上が亡くなり、同年、両親を亡くした子どもたちへ高校を卒業するまで一定額を給付する震災奨学金が創設された。同協会は同市教育長と面会し同奨学金への寄付を手渡した。赤石社長は「被災して1年がたつのに復興はまだならず、子どもたちのことを思うと本当に胸が痛くなった」と当時を振り返る。これを機に社員らが一致団結し、同奨学金に寄付を続けている。寄付金は、同社が保有

【三凌商事】1975年に設立。本社のほか、相模原や横浜など5市1町に支社とリサイクルセンターがあり、廃棄物の収集業務や、リサイクルなどの環境事業、有機肥料などの製造販売などを展開。自治体の事業も受託している。

する帰宅困難者用の備蓄品や贈答品などを、社員がチャリティー購入した善意。毎回好評で売れ切れるため、買えなかった社員が「気持ちだけでも」と募金することもあるという。

ほかにもドライバー有志(約150人)による、ドライバーズコンテスト(都トラック協会主催、警視庁共催)参加費寄付や、ベルマーク運動への協力などもしている。この3年間に寄付した金額は総計で約93万円に上る。今年、石巻市から

「震災奨学金が満額になった。感謝し尽くせない」と、うれしい知らせ



が届いた。社員らは「支援活動を通して、社内に強い絆が生まれた。石巻市以外にも、被災した子どもたち

石巻市の教育長(前列中央)を囲む東京都産業廃棄物協会のメンバーら(2列目右から5人目が赤石社長)

あるが、子どもたちへの支援のともじびを照らし続け、復興を果たす日までしっかり見守っていきたい」としている。

も、被災した子どもたち

は多く、今後支援を続けていく。時間の経過とともに震災が風化しつつ